

基本目標1

| 番号 | ご意見 |
|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 課題① | 座学等での多様性の理解が進んできていることは良いことだと思います。学んだことを試してみる（生かせる）場まで準備できれば、理解もさらに深まるのではないのでしょうか。また、試しっぱなしではなく、その対応方法について多様な個性・属性の方側からの意見・感想も伝えられるとよりよいと思います。 |
| 2 課題① | 「具体的配慮を実際の活動に生かしてくところまでは十分に浸透していない」とありますが、「具体的配慮」とはどういうことか、具体的に記述することが必要ではないでしょうか。 |
| 3 課題① | 多様な個性を受け入れる事はできているが、実際の活動で何をしたいかがわかっていない。 →グループに多様な人を取り入れ、グループ全員で経験を積む ⇒そのためには、どんなグループが何処にあり、それを多様な人に紹介をしていく組織が必要（具体的には、出前講座をやっている人が、多様な人と如何に繋がるかを検討） |
| 4 課題② | 時代の趨勢、高齢化等により自然淘汰される活動もあると思う、こういう人たちに対するサービスの転換時期と捉える。目標の「つながる」に対しては、ミニデイ・サロン開設数でなく、参加者数で評価したらどうか。 |
| 5 課題② 引継ぎ② | →サロン活動が継続できるよう、世代交代が円滑に進むための支援をする ⇒高齢化は今まで以上に進むため、益々担い手不足になる (同様なサロンをまとめる 多様な人に担い手になって貰う) |
| 6 課題③ | サークルが多数出きているが、サークル通し（同士）の繋がりが無い →市社協から助成金を受けている福祉関係のサークルや、公共施設を利用している福祉関係のサークルは、その目的ごとに②とあわせて一度見直しをする。 |
| 7 課題③ | 「認知症カフェ」の取り組みにしてもまだ、地域住民主体で行うにはその気運の醸成等に多くの時間を要すと感じます。しかし確実に前に進んでいるとは思いますが、地域の住民主体に多くの裁量を認めていくことがつながりを強くすることにつながると考えます。 |
| 8 課題③ | 地域ネットワークの構築の現状は福祉関係者内の構築であり、地域で活動している各種団体（福祉関係以外）、地元企業等住民を巻き込んだ働き掛けが必要。 |
| 9 課題③ | 「住民同士による主体的な繋がりづくり」は、何を以て評価しているのかが分りにくいので、具体例を入れたい。 |
| 10 課題③ | ネットワークの構成に住民の段階まで網羅されていますか。住民同士のつながりでは地域の祭り、イベントでの交流が大事だと思います。地域ネットワークではこうした企画立案の役割を果たすようにしたらどうか。 |
| 11 課題④ | 「目的」と「手段」の明確化、「手段」を講じて満足しないことを前提に「目的」に対する評価を「見える化」していく必要があると思います。例えば「認知症カフェ」、カフェを設ける目的は「認知症の方（閉じこもらず）安心して社会とのつながりを実感できる場を作る（準備する）」だとした場合、カフェで何をやるか？ではなく、カフェに参加することで目的の大部分は達成できたと評価すべきだと思います。 |
| 12 課題④ | 事例がよくわからないのでコメントできない。活動していくには常に基本（活動の目的＝原点がある）に立ち返る習慣が必要。疑問が起きたら原点に立ち返る。 |
| 13 課題④ | 「目的の共有」の目的が <u>妥当な目的</u> かどうかとも考えたい。共有化は良い場合もあるが、無理な事もある。 |
| 14 課題④ | 地域活動が活性化する中で目的が共有されないまま進んでしまうことがあるが、担い手が楽しみながら参加し、次世代につなげていく取り組みへの再構築が必要である。 |
| 15 課題④ 引継ぎ④ | →既存の活動に対する振り返りを適宜実施し、目的と効果を検証しながら、より実効性が高いものとなるよう地域と取り組む ⇒②③と同じ |
| 16 課題⑤ | 「難しい人」を具体的に例示すると良いと思います。 |
| 17 課題⑤ | つながりにくい人にどうやってつなげるかを、民生委員、又は地域の中で動く人との顔の見える活動を通して連携強化を図る。 |
| 18 課題⑤ 引継ぎ⑤-1 引継ぎ⑤-2 | ⇒全体的に何を言いたいが良く分からない。（①～③で事足りると思われる） |
| 19 引継ぎ ①-1 ①-2 | 対象者は誰なのか常に考えて具体化してください。 |

| 番号 | ご意見 |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 20 引継ぎ①-1 | 「具体的な配慮」とは何かを明確にし、これに対応した計画を盛り込む |
| 21 引継ぎ①-1 | 多様性の理解促進として、高齢者、認知症の方の理解に限らず、身体、知的、発達、精神障がいの方の特性、性的マイノリティーの方の理解、外国人等多文化共生のための理解促進を、 <u>当事者を交えて幅広く学ぶ機会や交流の場を作る</u> ことが必要かと思います。 |
| 22 引継ぎ①-2 | この課題に対する問題意識は非常に良い（必須）と考えます。「福祉」は「社会全体の幸せ」であり、このような社会を作るための諸活動である中で、圧倒的に不足しているのが <u>担い手（裾野）</u> だと思っています。これらについての考え方を抜本的に見直すことが必要と考えます。 |
| 23 引継ぎ② | <u>世代交代</u> が円滑に進めるには、サロン活動団体の活動基本に <u>世代間、地域間を超えた度量を織り込む</u> ことが必要。 |
| 24 引継ぎ② | 会社の事業承継のように、第三者に <u>承継できる仕組み</u> ができると良いと思います。 |
| 25 引継ぎ② | ”世代交代が円滑に進むための支援をする”の記述では具体性に欠けると思う。「何を」「どうするか」を考えたい。 |
| 26 引継ぎ② | サロン活動の継続が必要なかどうかの検討をしたうえでの、継続支援方策そして世代交代の勧めが良いかどうかの検討支援ということを考えるべきではないでしょうか。 |
| 27 引継ぎ② | 活動の継続や世代交代についての支援は、第1層の生活支援コーディネーターの役割でもあると思いますが、組織が自立して継続的に運営されることについては、 <u>組織運営の専門性</u> が必要かと思います。また、企業の定年年齢の引き上げから地域活動へ参加が難しくなっている現状もあり、 <u>現役世代の活動参加への何らかのアプローチ</u> が必要かと思います。企業のCSR活動として人的資源の提供や、ボランティア休暇制度の普及などが挙げられます。 |
| 28 引継ぎ③-1 | 地域ネットワークの構築は、全地域に浸透しているとはいいがたい。住民同士のつながりづくりまで支援の必要性を感じる。 |
| 29 引継ぎ③-1 | 成功事例の <u>共有ツール</u> が必要です。成功事例の背景にある特性（地域性等）を細部に掲載してください。 |
| 30 引継ぎ③-2 | 「マッチングの調整」だけでなく、具体的な <u>機会の創出</u> をするとすべきではないでしょうか。 |
| 31 引継ぎ④ | どの様に取り組むのか、より実行性が高いものとなるには、地域の中で動く人とのつながりを大切にしながら、どんな支援ができたのかを <u>検証</u> しつつ、実施する。 |
| 32 引継ぎ⑤-1 | 「関係機関等」の具体例を記してはどうか。 |
| 33 引継ぎ⑤-2 | ここの文言は、 <u>アウトリーチの強化のために、デジタルの活用</u> をするということでしょうか？デジタルでのつながりもアウトリーチに含めるということでしょうか？ |
| 34 引継ぎ⑤-1 | 福祉関係者を含め自らの役割の中から接した方を観察して、困りごとが有りそうな直観を共有していく。 |
| 35 目標1 つながる | ミニデイ・サロン等で認知症の人や障がい者の <u>受入れ</u> 、共に見守り支援等の <u>ボランティア</u> としての活動も出来る様な地域の体制が進んで共生社会を広げてほしい |
| 36 新規 | これまでの取組みで「つながる」ということについては、一定程度成果を得られている部分も多いと思います。次期は「 <u>つながりつづける</u> 」という意識もとっていればよいのではないのでしょうか。 |
| 37 新規① | 生活困窮世帯への支援対策やひとり親家庭支援として、こども食堂など居場所づくりから支援対象者の発見、相談、支援に至るつながりが必要であると考えます。また、ひきこもりの方への支援として、 <u>自宅でない居場所の提供</u> から、地域、社会へとつながる仕組みを作ることも課題の一つかと思います。 |
| 38 新規② | 地域福祉の活動がボランティアなものだけではないこともあり、また、現場を担う人材が無償奉仕で行なっていることも課題の一つですが、継続した活動に必要な人材を確保するためにも、何らかし資金を得ることも考える必要があるのではないかと思います。そのため、地域の <u>企業</u> 、地域おける公益的な取り組みに責務を負う <u>社会福祉法人等</u> との <u>つながりに積極的なアプローチ</u> が必要で、それを担うコーディネーター、補助金申請や資金調達の専門家の関与も大事かと思います。 |
| 39 新規③ | 近い身内を失った方、夫、妻、子供などを亡くされた方に対する地域の方のつながりを活かした <u>グリーフケア</u> が行えると良いと思います。居場所の設置や訪問での関わりなどで、複雑性悲嘆（病的悲嘆）に陥らないよう支援することは、生活や環境変化を原因として、社会とのつながりを失ったり、絶ってしまう方の、 <u>精神疾患や健康被害の発症防止</u> につながると考えます。 |

基本目標 2

| 番号 | ご意見 |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 課題① 情報発信の効果はすぐには現れなくても良いと思う。 |
| 2 | 課題① 引継ぎ① ボランティア活動をしている人のグループ（担い手不足の主に高齢者グループ）が何をやっているかを、誰に（世代は？ ボランティアをやりたい人なのか？ ボランティアをやってもらいたい人なのか？）伝えたいか、によっても何で伝えるかが変わってくる。 ②も同様 |
| 3 | 課題①② 若い人達に <u>地域参加の情報発信</u> を LINEやインスタ、YouTubeなどで少しでもつながり 活動のキッカケになり活性化になる様に続けてほしい |
| 4 | 課題④ <u>福祉以外の団体</u> と、関心ある事やできることでマッチング。 <u>学校や商店・企業の協力を促進</u> して行ってほしい |
| 5 | 課題④⑤ 認知症や障がいのある方も、できる事をいかして <u>本人の活動の意欲を引き出して</u> 頂けると嬉しいです |
| 6 | 課題⑤ 「地域福祉の担い手」は住民・ボランティアだけでなく、福祉を仕事としている人と行政が入ると思う。民生委員・ケアマネ・福祉専門の行政職員が不足。 |
| 7 | 課題⑤ 「ボランティア」は「自発意思に基づく行動」であり、最近では <u>無償であることも必須条件ではない</u> という風に考え方も変化しています。「福祉」＝「社会のしあわせ」と考えるのであれば、それを望まない方はいないと思います。そのしあわせづくりに自分がどう貢献できるか？がモチベーションになるのだとすると、誰もがいろいろな強味を持っていると思います。「ボランティア」の枠に無理に収めようとするのが無理を生むと思います。 |
| 8 | 課題⑤ 「担い手」の種別を明示すると良いのではないのでしょうか。 |
| 9 | 課題⑥ 世代交代は確かに必要です。が、無理にするものでもないと思います。若い世代には若い世代なりの価値があり、その力も決して小さくありません。その力を社会がどう認め、その力を活用するモチベーションにつなげられるのか？ではないのでしょうか？今までと同じことを継続することが正解ではないとすると、スクラップ&ビルドを繰り返しながら、 <u>社会に必要なもの</u> が残っていくと思います。 |
| 10 | 課題⑥ 「うまくいかないことがある」⇒「できない状況がある」の方が良いのではないかと。 |
| 11 | 課題⑤⑥・引継ぎ⑥-2 基本目標 1 の引継ぎ②と同様 |
| 12 | 引継ぎ① 幅広い対象に向けての発信も重要と思う。 |
| 13 | 引継ぎ① ボラダスのユーチューブ動画などで、ボランティアの方をお一人ずつ取り上げ、なぜボランティア活動をするか、その動機や目的、得られるもの、想いなどを掘り下げて伺うことでその魅力を伝えていく。また、著名人、社会奉仕活動家により、そもそものボランティア精神の育成、醸成のために「ボランタリズム」の講義、動画配信などを行うことも良いかと思います。（例・阿部志郎さんのボランタリズムの講演、イエローハット創業者・鍵山秀三郎さん「日本を美しくする会」に学ぶ等） |
| 14 | 引継ぎ②-2 発信された情報を受け取る側の整備も併せて必要。（発信媒体ごとの受信側の整備、働き掛け） |
| 15 | 引継ぎ③-2 人員の派遣も含めた支援をしてください |
| 16 | 引継ぎ④-1 令和3年度からの実績を踏まえて計画通りに行かない理由を調査し、実施計画の見直しを行う |
| 17 | 引継ぎ④-1 「継続的な繋がりづくり」をもう少し具体的に表現してはどうか。 |
| 18 | 引継ぎ⑤-2 人員確保は一過性なものではないので、 <u>広く、継続的に続ける</u> 必要があります。60歳以上を対象に人生の生き方の講演を随時行っていただきたい。タイトルは「70歳以降貴方はどの様に生きますか」時間と経済的に余裕のある70代の元気な方に人生で築き上げてきたスキルをボランティア活動でいかせませんか。 |
| 19 | 引継ぎ⑤-2 「 <u>学校教育の中へのボランティア教育の取り込み</u> をしていく。」と具体化すべきではないか。 |
| 20 | 引継ぎ⑤-2 「担い手確保に向けた仕組み作り」は大事。福祉を仕事とすることの「良さ」・「やりがい」・「使命」を現場から発信してもらえたら良いと思う。 |
| 21 | 引継ぎ⑥-2 茅ヶ崎市内の中学・高校では部活動としてボランティア活動を行っている団体があります。それらの団体と茅ヶ崎市ボランティア連絡会の加盟団体等との <u>交流の場</u> を設けてはいかがでしょうか。 |
| 22 | 引継ぎ⑥-2 <u>親子で楽しめるイベント</u> から関心のある事を見つけてボランティア活動の1歩としてつなげられたら |

| 番号 | ご意見 |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 23 引継ぎ⑥-2 | ボランティア活動を <u>一緒に楽しめる活動</u> としての仕組作りに取り組む |
| 24 引継ぎ⑥-2 | ボランティア活動の教育は小学校、中学校の教育の中で教える必要があると思います。思いやり、困っている人見かけたら声掛けするなど、 <u>教育委員会などと連携</u> を取って、長く継続的に行う必要があります。 |
| 25 引継ぎ⑥-3 新規 | ボランティア活動の関わり方の方策の検討をする。 |
| 26 ④～⑥ | 担い手の育成・支援に一部の地区で主体的に始まったボランティアポイント制度の導入のように、ボランティアの楽しみにつながるような取組については積極的に全地区へ情報共有を図りました。 と、有るが、ポイント制度を取り入れている地区での <u>成果</u> はどうか。その結果により、もっと具体的に茅ヶ崎市として条例化で取り組める事なのかの検討。等、他市区町村での取り組み状況を踏まえ、今後の方向性を出していく時期ではないか。 |
| 27 新規 | 茅ヶ崎市以外の市町村（出来れば全国）の成功事例を収集し、真似て実践改良して行う方法も検討する。デジタル時代他の市町村に学ぶ姿勢も必要かと思います。 |
| 28 新規 | <u>居場所から新しいボランティア活動につなげていく</u> 。若年層からの担い手支援。 |

基本目標 3

| 番号 | ご意見 |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 課題① | 課題①の文面の目的の共有の原点は日本国憲法第25条の条文であり、国が条文を果たす為に国や地方公共団体の行う福祉制度のなかで支えてい（社会福祉）ますが、社会福祉を具体的に住民へ働き掛けしていくのが地域福祉を担う私たちの役目だと解釈しています。目的は憲法25条の実現が目的になります。福祉関係者には体系的な教育の機会を与えてください。自分の立ち位置を理解して行う活動に意義があると思います。 |
| 2 課題① | 多機関が参加するという事は、時間や調整が必要で形式的になることも多々あると思う。参加者の協力と主催者の権限と調整力がポイントと思う。 |
| 3 課題② | 「福祉」は、「制度は後付け」だと思う。大事な視点と思う。 |
| 4 課題② | 基本目標 1 新規③同様 近い身内を失った方、夫、妻、子供などを亡くされた方に対する地域の方のつながりを活かしたグリーフケアが行えると良いと思います。居場所の設置や訪問での関わりなどで、複雑性悲嘆（病的悲嘆）に陥らないよう支援することは、生活や環境変化を原因として、社会とのつながりを失ったり、絶ってしまう方の、精神疾患や健康被害の発症防止につながると考えます。 |
| 5 課題③ | どのような配慮があれば、障がいをかかえる人が地域の商店等の利用しやすくなるのか、商店の方にバリアフリー法を学んでもらったり、意見交流会を開催してはいかがか。 |
| 6 課題③ | 基本目標 1 新規②同様 地域福祉の活動がボランティアなものだけではなく、また、現場を担う人材が無償奉仕で行なっていることも課題の一つですが、継続した活動に必要な人材を確保するためにも、何らか資金を得ることも考える必要があるのではないかと思います。そのため、地域の企業、地域における公益的な取り組みに責務を負う社会福祉法人等とのつながりに積極的なアプローチが必要で、それを担うコーディネーター、補助金申請や資金調達の専門家の関与も大事かと思えます。 |
| 7 課題④ | 「満足 of いかない恐れがある」⇒「満足 of いかないことがある」とすべきではないか。 |
| 8 課題④ | 理解が不十分であることでのトラブルの一つに、後見事務報酬の継続的な支出が挙げられますが、成年後見人の事務、活動の具体的な内容が可視化できていないことや、報酬の根拠となる活動がそれに見合ったものかどうか、情報を得にくいところもあるため、家裁が示す報酬目安のほかに、ある程度の目安となる生活上必要な手続き支援や代理行為の一般的コストがどのくらいになるか示すことができる資料などがあると良いかと思えます。 |
| 9 課題⑤ | 判断能力が不十分な方で、支援者から見て制度利用の必要があるにもかかわらず、本人の利用意思がない方への関わり、制度以外の権利擁護支援などの資源の開発、チームによる支援でできることなどを検討することが必要です。国のモデル事業等を参考にして支援者、地域住民も含めた取り組み、仕組みづくりが必要ではないかと思えます。 |
| 10 課題⑥ | 法人後見受任団体の設立支援も必要かと思えます。場合により市町村主体で実施することもありかと思えますし、市社協の法人後見と専門職団体の協働も必要かもしれません。 |
| 11 課題（新規①） | 費用負担が原因で制度利用しない方がいる。 |
| 12 引継ぎ①-1 | 「関係機関及び地域団体と協働し」とあるが誰が、いつ、どのようにするかコーディネート機関が必要ではないですか |
| 13 引継ぎ②-1 連携強化・支援体制 | 相談できる体制づくりを考え、多様に連携が取れる様につなげられる仕組みを作って継続的な支援に |
| 14 引継ぎ② | 一人暮らしの高齢者が増える中、「見守り」「安否確認」の需要は増加している。有料の民間サービスも多種あるが、必要な人が利用しているケースはまだまだ少ないと思われる。茅ヶ崎市では緊急通報装置の貸与をおこなっているが、より簡単に地域で見守りができる仕組み、（たとえば「らいふコール」のサービス自動電話通知：決められた時間帯にらいふコールから自動音声で電話があり、プッシュボタンでその日の健康状態を報告）ができたら高齢者も安心してらせるのではないのでしょうか。 |
| 15 引継ぎ②-2 | 新しいニーズに対しては、行政担当者の吸い上げて形にしていくチャレンジ力に期待したい。 |
| 16 引継ぎ③ | 地域で取り組んでいる活動を共有化し、マッチング等の検討や継続的なつながりづくりに取り組む |
| 17 引継ぎ④ | 「成年後見制度は社会に有用な仕組みであるとは思っているものの、運用を間違えれば権利侵害につながる」と常に考えています。制度の普及や活用が増えることがゴールではなく、この制度により救われる方、幸せになる方が一人でも多くなるように運用側が濫用せず、きちんとした線引きをする必要があるかと思えます。 |
| 18 引継ぎ⑤⑥⑦ | 成年後見制度とは別の、市独自の後見的調整支援制度（機関）を創設してはどうか。 |
| 19 引継ぎ⑤ | 行政職員に弁護士を採用して、相談支援の段階で対応できる体制があるといいです。弁護士職員が他の職員に指導、アドバイスもできし、緊急性の高い案件にも迅速に対応出来ます。 |
| 20 引継ぎ⑥ | 市民後見人の意義、必要性、重要性（今後の社会変化で必要とされ人材が増加する）を解くと同時に最終的な困りごとは行政が引き受ける体制が必要です。 |
| 21 引継ぎ⑥-2 | 「市民後見人」の良さは良い意味での”市民感覚”であると思えます。士業、専門職は制度の常識によって縛られる場合もあると思えます。市民後見人＝地域で支える→地域共生社会の実現のような方向性を築くために、広く社会に知られる制度として成長させていく必要はあると思えます。文字面のイメージでまだまだ”難しそう”とのイメージから敬遠されがちな制度であるとは思えます。 |
| 22 引継ぎ⑦ | 「受任形態の検討」⇒「受任形態（複数受任等）」と例示してはどうか。 |
| 23 引継ぎ（新規①） | 費用負担の助成制度創出の検討をする。 |

| 番号 | ご意見 |
|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題⑦ 引継⑥-1 引継ぎ⑥-2 引継ぎ⑦ | 市民後見人育成、フォローアップについては、座学による学びを <u>実践に結びつける</u> ために、一定程度のインターン期間や専門職によるチューター制度を導入するなどのアイデアがあると思います。また、業務の困難性や支援の難しさのイメージが残りやすいこともあり、後見人としての役割感、達成感、やりがい、ステイタス、学びと成長など、支援の結果がどうであったか、 <u>成功例なども積極的に伝えていく必要がある</u> と思っています。 |